

学校だより「元輝学舎」

平成23年1月7日

広島市立吉島小学校 第134号・卯年第1号

明けましておめでとうございます

今年、卯の年。卯年は西暦年を12で割って7が余る年をいう。
余りが7とはまさにラッキー7のよき年。

この卯年にもまた、さまざまな著名人が生まれているようです。彫刻家、詩人でもあったシランゾエロ、ノーベル化学賞・物理学賞を受けたマー・キュリー、『相対性理論』のアインシュタインさんなどなど。



昨年の大晦日、新年を告げる除夜の鐘をききながら、この卯年の目標を設計しようと、数冊の千支の本を読みました。昔から「卯年は進歩の年」とよくいわれています。しかし、兎にかかる希望をもたせることわざがなかなかみつかりません。

兎は動きに躍動感があり、跳ね上手・登り上手、加えて家族で活動するため家族愛を象徴する千支でもあります。…「あった！みつかったぞ！」お気に入りのことわざが。兎が坂を登ることに長けていることから、得意な力を発揮すれば、よい方向に必ずすすむことを意味する「兎の上り坂」。

さて、得意分野の力をみがき、世に偉業を成した上にあげた三人も、自分自身への応援歌、人生訓ともいえる名言を残しています。たとえば、

シランゾエロは、「私たち皆にとって最大の危機は、高きをめざして失敗することではなく、低きをめざして達成することである」と。

(この意は) 最初から諦めてしまうほどでもなく、いつも達成できる目標でもなく、自分に適度な負荷のかかる目標こそが、今の自分を成長させてくれる目標である。

マー・キュリーは、「チャンスは、夢をみ、その夢の実現に備える者に、必ずほほえむものです」と。

アインシュタインは、「昨日の失敗から学び、今日のためにそれを役立て、明日のために希望をもちなさい」と。

幕が開いた卯年。この1年間、保護者や地域の皆様方をはじめ、子どもたちにも、幸多く「兎の上り坂」の年になりますことを願いますとともに、保護者や地域の皆様方には引き続き、格別なご理解、ご支援をお願い申し上げます。